

SunSystems 管理会計事例

第4回 SunSystems で部門分析をする（入力編）

売上や費用の計上仕訳を起こす際、勘定科目コードや金額の他に分析コードとして部門コードを入力することにより、後に「部門別損益計算書」や「部門別売上管理表」「部門別経費一覧表」または予算データも部門別で入力しておけば、これらの帳票を全て予算対比して出力する等、多彩な管理帳票を出力することが可能です。今回は帳票の設定に関しては割愛させていただきます。

収益の場合

売掛金	¥10,500-	／	売上	¥10,000-	A 部門
			仮受消費税	¥500-	

費用の場合

交通費	¥476-	A 部門	／	現金	¥500-
仮払消費税	¥24-				

部門別損益計算書

A 部門

売上	¥10,000-
費用	¥476-
=====	
	¥9,524-

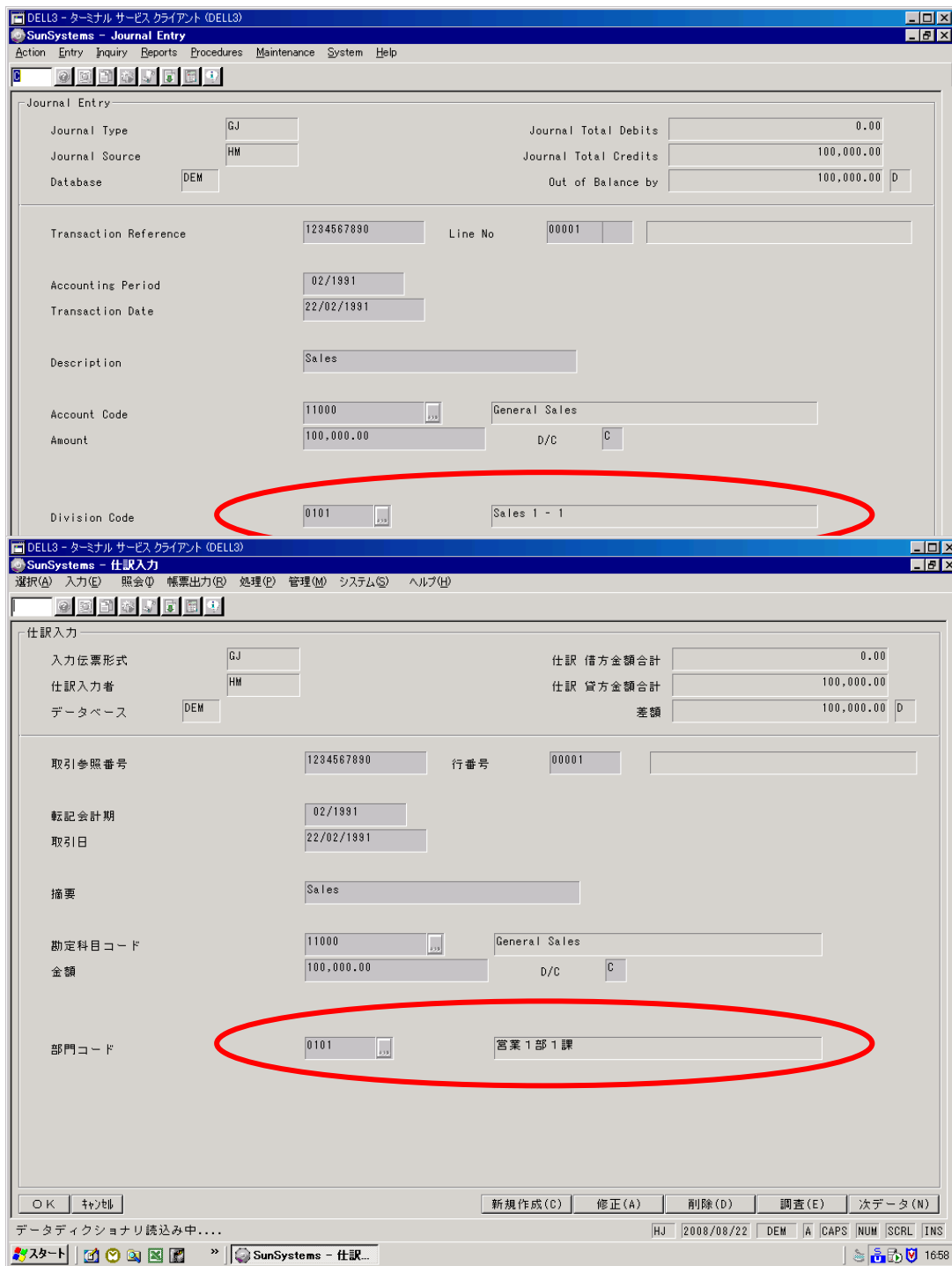
※このT分析は他に、従業員コード、商品コード、商品グループコード、プロジェクトコード、サービス種別コードや、各種業種別の管理・分析項目にも応用することが出来ます。

しかし、従業員の分析などは、部門分析のように会社全体の収支を細分化した収支分析で、企業業績の向上・改善を行う材料とするのとは少し異なります。もちろん、営業マンの収支を分析する事も出来ますが、その営業マンが使った費用というのは、ひとつの売上を上げる為だけに支出したものばかりではありませんし、ある会計期間内に販管費を使った案件が、その会計期間内に制約するとは限らず、そこから出てきた収支というのはあまり意味がありません。もちろん物品を販売しないコンサルテーションやサービスを提供するような職種では、会計期間外の繰り延べを考慮して、個人売上と個人の固定費、経費を差し引いて個人利益を算出し、その人の実労働時間から

実単価を計算して次年度の顧客向け単価アップのための戦略を行うことも出来ますが、あまり一般的ではありません。

ですから、一般的に従業員分析は、評価や財務会計に係る明細データの管理目的（交際費の使用者の判別など）に利用すると考えてよいでしょう。

JE=仕訳入力 (Journal Entry)



The image shows two screenshots of the SunSystems software interface. The top screenshot is titled 'SunSystems - Journal Entry' and the bottom is 'SunSystems - 仕訳入力'. Both screens display a form for entering a journal entry. In both, the 'Division Code' field is circled in red.

Journal Entry Screenshot (Top):

- Journal Type: GJ
- Journal Source: HM
- Database: DEM
- Journal Total Debits: 0.00
- Journal Total Credits: 100,000.00
- Out of Balance by: 100,000.00 D
- Transaction Reference: 1234567890
- Line No: 00001
- Accounting Period: 02/1991
- Transaction Date: 22/02/1991
- Description: Sales
- Account Code: 11000
- General Sales
- Amount: 100,000.00
- D/C: C
- Division Code: 0101
- Sales 1 - 1

仕訳入力 Screenshot (Bottom):

- 入力伝票形式: GJ
- 仕訳入力者: HM
- データベース: DEM
- 仕訳 借方金額合計: 0.00
- 仕訳 貸方金額合計: 100,000.00
- 差額: 100,000.00 D
- 取引参照番号: 1234567890
- 行番号: 00001
- 転記会計期: 02/1991
- 取引日: 22/02/1991
- 摘要: Sales
- 勘定科目コード: 11000
- General Sales
- 金額: 100,000.00
- D/C: C
- 部門コード: 0101
- 営業 1 部 1 課